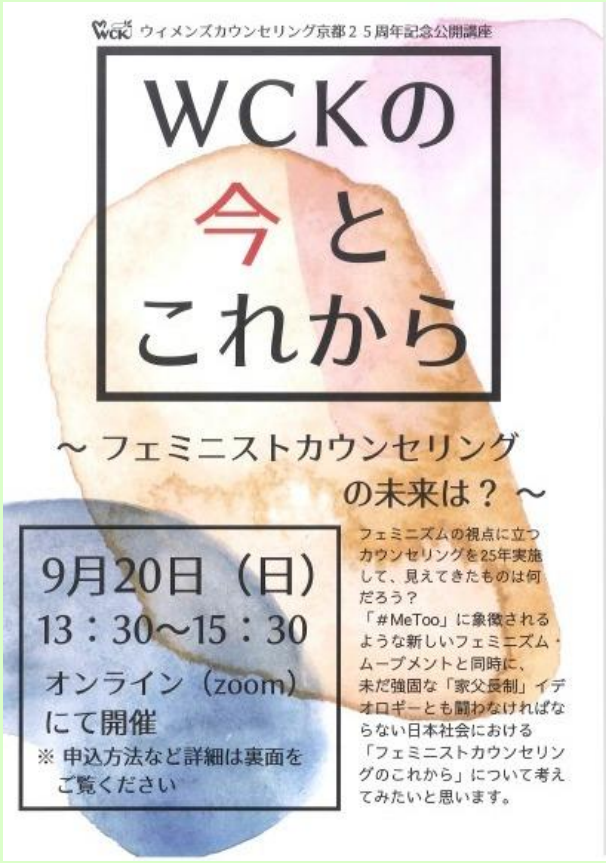
山田みやこの活動報告

令和2年9月20日(日)

ウィメンズカウンセリング京都25周年記念公開講座に参加



① 性暴力被害支援の今とこれから

講師　周藤 由美子氏

　京都性暴力被害者ワンストップ相談支援センター(京都SARA)は2015年8月に開設。京都府が設置し、ウィメンズカウンセリング京都が運営を受託。10～22時 年中無休。
　電話相談・来所相談・同行支援、医療費として10回までのカウンセリング費用が公費で負担される。

〈公費負担カウンセリング〉
　1～2回で中断・終了するケースが多く、被害から1年以内の相談割合が高い。
　10回のカウンセリングでは長期に渡って性暴力のトラウマ後遺症に苦しみ、複雑性PTSDの状態と考えられる。

〈性暴力のトラウマカウンセリング〉
　あなたは悪くない、安全の確保、社会との再統合をカウンセラーと一緒に作っていく。

〈フェミニストカウンセラーのこれから〉
　性暴力被害者の心理的ケアの役割の期待。「支援してあげる」のではなく対等な関係。被害者の「回復する力」を信じる。

② DV被害者支援　～何が変わったか、これから必要なことは何か

講師　竹之下 雅代氏

１）DV被害者の「今」

　身体的暴力が他の手段に転じ見えなくなり、モラルハラスメントの悩みが顕在化。児童虐待防止法が改正され、子供だけを保護し、DV女性へのまなざしがますます厳しくなる(「なぜ逃げない」「なぜ子供を守れない」等)　別居しているDV加害者からの面会交流を通しての支配。

２）DV被害者支援のこれから

　被害者・当事者は専門家であり、教えられる存在➡もっと被害者から聴く
　家庭の支配構造を見抜く、重篤な複雑性PTSDを理解する。子どもの大事な存在である母親への支援が必要。
　被害女性と子どもをセットで支援する全国ネットワークを構築。ジェンダーの視点を持った相談の連携として、加害者と距離をとり支援者とつながる。安全な生活で母子相互の関係性の回復で相乗的に回復する。
　DV被害は子育ての困難度が極めて高いためトラウマの連鎖を断つ。

３）フェミニストカウンセリングの実践

　被害者自身に起こっていることを理解するサポート。トラウマ体験を聴く。母親が子供を養育する力を育むために、傷付いた経験を受け入れる。家族の構造を見抜く力で被害者の状況を代弁する。
　語りにくいトラウマを聴く力を持ち、支配を見抜く眼、ジェンダーに敏感な視線を磨く。
「他者を支配しなくてはならない」というメッセージ、人としての尊厳を育てる教育や人権意識の教育。

③ フェミニズムカウンセリングの未来は？

講師　井上 摩耶子氏

１）フェミニストカウンセリングの実践

　女性の問題は経済的・社会的・法的な差別(家族・宗教・教育・娯楽・職業・法律における差別)のある社会を生きていかなければならないことから生じている。この問題の解決はカウンセリングによる個人的変革のみでは不十分で、女性差別的な社会的慣行などを変える社会的変革(フェミニズム運動)が必要。

２）性暴力被害者へのフェミニストカウンセリングの実践

　１．安全な環境をつくる

　２．自分の歴史を取り戻し、社会とエネルギーを感じる

　３．新しい自己を成長させ、信頼能力を取り戻す

３）フェミニストカウンセリングのこれからは

　人種・年齢・障がいなど多様な要因が差別を生んでいるとの認識から、お互いの違いを認め・尊重し・理解し・認め・受け入れ・活かしあうことを目指す。
　しかし日本の現状はフェミニズムとは正反対の「同調圧力」にさらされている。2000年代以降の学校では「周りの空気を読み、他者に忖度し、自己主張はしない」をする教育を実施。

※「同調圧力」とは (文部科学省元事務次官 前川喜平氏)
　長いものに巻かれることを善と受け止め、強い権力に同化させることで自らのアイデンティティを持とうとする。無意識のうちに同調圧力に屈し、忖度や萎縮を絶えず繰り返す。そうした人間が増えているのが今の日本だと思う。自ら考える力を育てる教育が今こそ必要だと声を大にして改めて訴えたい。

　今こそ同調圧力に屈しないフェミニストカウンセリングをというメッセージが印象的だった。